

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001674		
法人名	株式会社フレンズホーム		
事業所名	フレンズハウス中島新町 ユニット1		
所在地	愛知県名古屋市中川区中島新町一丁目502番地		
自己評価作成日	令和4年9月16日	評価結果市町村受理日	令和5年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2371001674-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2371001674-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日を明るく楽しく、自宅で暮らしているように過ごしていただけるよう工夫している。居室内は、利用者様が自由に暮らせる空間であるため馴染みの物や家具を好きなように置いていただき、落ち着いた空間で過ごせるように配慮している。利用者様との信頼関係を築くことに気を配り打ち解けて生活する中で、残された能力を發揮できるように支援していきたいと職員皆が同じ考えで方向性を一つに持って努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

基本理念でもある「明るく、楽しく、元氣よく」を職員の支援の基本に考えながら、利用者が毎日の生活を前向きな気持ちで過ごすことができるように、ホーム内はアットホームな雰囲気がつくられている。職員間で利用者に関する支援内容の検討を行い、利用者が好みの場所で過ごすことができるような支援も行われている。現状の感染症問題あることで利用者の外出の機会は限られているが、利用者の中には入居前からの関係の方との交流を継続する等、入居前からの生活の延長になるような支援も行われている。また、法人代表者が地域の役員を務めていることもあり、地域の方との交流や非常災害に関する協力関係の機会にもつながっている。運営推進会議についても、関連事業所の管理者が会議に参加しており、地域に関する情報等、様々なテーマでの情報交換の機会にもつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念はリビングなど目につきやすいところに掲示している。ミーティングなどで共有し、実践に繋がるよう努力している	基本理念を支援の基本に考えながら、職員会議等を通じて職員間で理念を振り返るような機会もつづられている。管理者からも、理念に掲げられている「明るく、楽しく、元気よく」を心掛けるような働きかけも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	外に出かける機会が減っているため地域の方と関わる機会が減っている	感染症問題が続いていることで地域の方との交流が困難な状況が続いているが、運営推進会議を実施する等、可能な範囲で地域の方との交流を継続する取り組みも行われている。また、法人代表者が地域の役職を担っており、地域交流にもつながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	施設に見学に来られた方に、認知症の人の暮らしを見てもらい説明するなどし理解していただけるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	事業所の現状や取り組みを報告し合い意見交換を行っている。会議で出た意見などは運営に反映できるよう努めている	会議については、可能な範囲で開催する方針で継続しているが、感染症の状況に合わせて書面での実施も行われている。また、運営法人の関連事業所の管理者も会議に参加しており、情報交換等も行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	生活保護受給者を受け入れており、区の担当者とは定期的に情報交換を行い協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当部署との情報交換等については、運営法人の事務局を通じて行われていることが多いが、ホーム管理者も市担当部署との情報交換等が行われている。また、現状は限られた範囲となっているが、研修会等への参加の機会もつづられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について学ぶ機会を設け、身体拘束にあたる行為を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。夜間以外は玄関の施錠も行っていない	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、出入口についても出入りができるため、職員間で利用者を見守る支援が行われている。また、身体拘束に関する定期的な検討や職員研修の機会をつくり、職員の振り返りや注意喚起等につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待が身体的な虐待だけでなく心理的な虐待なども含まれる事を理解し、虐待が見逃ごされることがないように注意を払い防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度について十分に理解できていないのが現状である。研修などを利用して学ぶ機会を設けていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時にご家族様やご本人に希望や不安に思っている事を伺うようにしており、施設で行える範囲のケア方法を説明し納得したうえで契約している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会に来られた際などに意見や要望を聞くように努めている。また、玄関に意見箱を設置している	現状、家族との交流が困難になっているが、可能な範囲で交流の機会がつけられている。家族からの要望等については、管理者の他にも運営法人の事務局による対応も行われている。また、毎月の便りの作成の他にも、LINEを活用した情報交換も行われている。	ホームからの便りの内容について、家族から要望等が出されていることもあるため、内容の工夫を行う等、今後の改善につながることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	普段から意見があれば聞ける態勢は常に持っている。月に1度の職員会議でも意見や提案を聞く機会を設け反映させている	毎月の職員会議や日常的な職員間での情報交換を行いながら、職員からの意見等を運営法人の事務局にも報告し、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、近隣ホームの管理者間での情報交換も行われており、業務改善等にもつなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者と話すの機会はなかなか持てていないが、事務局長を通じて職場環境や条件を考慮するようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修を受ける機会があれば参加し知識の向上に繋がるよう努めている。研修後には報告書を作成し皆が閲覧できるように保管し共有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	現状は同業者と交流する機会を設けることが出来ていない。管理者は姉妹法人の運営推進会議に参加し意見する機会がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前から情報収集を行い、ご本人にも要望や希望などを伺うようにし、少しでも不安を取り除けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前の面談や入所してからも面会時などに要望や不安に思っていることを伺うようにしている。可能な限りケアプランにも要望を取り入れ支援に繋げるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所前の施設や病院などから情報収集を行い、ご家族からも様子を伺っている。必要に応じ福祉用具なども検討し導入する際にはご家族に説明し同意を得ている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一緒に食事をしたりテレビを観たり、お話をしたりして支え合える関係を築けるよう心掛けている。お互いが協力し合えるような暮らしが送れるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に日頃の生活の様子や近況報告を行い必要に応じ相談もしている。ご家族の要望も可能な限り取り入れ、共に本人を支えていく関係を築くよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今までの関係を大切に、馴染みの人との関係も可能な限り途切れないよう希望があれば連絡を取り合っている	現状、外部の方との交流が困難になっているが、利用者の中には携帯電話を活用しながら交流を継続しており、関係継続にもつながっている。家族との外出についても、感染症問題があることで外出が困難になっているが、可能な範囲で対応が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士が話し合っている時間を大切にし関係を見守っている。レクリエーションを通じて会話のきっかけが作れるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後でも法人内の他施設に移った方には訪問した際に面会することもある。相談があれば出来る限り支援できるよう努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	言動や表情などに気を付け日々観察している。出来るだけ本人の思いに添うように努めているが、出来ない事もあるためそういった時は理解してもらえるよう説明している	職員全員で利用者に関する意向等の把握が行われており、申し送り等を通じて情報交換が行われている。また、毎月のカンファレンスを実施しており、利用者や家族の意向等を定期的なアセスメントの実施や日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前より情報収集を行い把握するよう努めている。ご本人にも尋ね、知り得た情報は職員間で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日のバイタルチェックや申し送りで変わったことがあればその都度情報を共有するようにしている。その時その時の状態を把握し状況にあったケアが出来るよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎日の暮らしの中で問題点が出てきたら、その都度話し合い、必要に応じて介護計画に取り入れている	介護計画については、3か月を基本に見直しが行われており、状態変化等に合わせた対応が行われている。日常的にも介護計画の内容に関するチェック表に記録を残しながら変化等を把握し、職員間でのチェックを通じて3か月でのモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録用紙に食事量や水分量、1日の様子などを記録している。何か特別なことがあればその都度話し合い、大事なことはミーティングで話し合い決めて統一している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者様やご家族様のニーズに対応し、新たな問題は重視し柔軟なサービスのあり方に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	以前は地域のボランティアの方にお話し、フラダンスや落語などの慰問に来ていただきていたが、感染症の問題があり現在は行っていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回協力医療機関の主治医の往診を受けている。家族の希望する病院があれば受診していただいている	協力医療機関の変更が行われており、全員の利用者が協力医をかかりつけ医とするなように移行が行われている。協力医療機関の看護師との情報交換等も行われていることで、医療面での支援にもつながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	月に2回協力医療機関の看護師の往診を受けている。生活の中での変化や傷の手当など、気になったことは相談し助言していただいている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを作成し情報を伝えている。定期的に看護師に状況を聞くなどし、状況の把握に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化してきた場合は、施設での可能な支援を説明し家族の意向も踏まえ方針を検討している	現状、看取り支援については困難であることを家族にも説明が行われているが、ホームでも可能な支援が行われており、身体状態の重い方もホームでの生活を継続している。また、運営法人の関連事業所(特養、有料老人ホーム)への移行支援も行われている。	当ホームの新たな協力医療機関との看取りに関する話し合いは行われていない現状もあるため、ホームで支援可能な内容に関する確認等の取り組みにも期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時のマニュアルを作成しており職員は把握に努めている。応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っていないため緊急時の対応に不安がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地震や火災、津波を想定した訓練は年に2回行っている。地域の方との合同の訓練は行っていないため協力体制は築けていない	年2回の避難訓練を実施しており、夜間想定訓練や通報装置の確認の他、水害を想定した訓練も行われている。法人代表者が地域の役員でもあることで、防災に関する連携にもつながっている。また、備蓄品の他にも、発電機を設置する取り組みも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様の人格を尊重し、プライバシーを損ねない対応や言葉かけを心掛けている	理念に掲げられている「明るく、楽しく、元気よく」を支援の基本に考え、利用者への対応や言葉遣い等の意識向上につながるように、管理者からも注意喚起等も行われている。利用者に関するカンファレンス等を通じて、利用者のおしゃれの支援等も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや希望を聞くようにし、表現の難しい方には選択肢を提示するなどし、本人の希望に耳を傾け自己決定出来るように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様一人一人のペースを大切にしている。一日の生活の流れを考慮し、希望があれば対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った衣類や、選択した衣類のほころびやボタンが取れていないかなど確認し注意している。外出する時は本人の気に入った服装や装飾品などを身に着けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様のADLが低下しているため食事作りは参加していないが片付けや準備などはしていただいている。職員も同じテーブルで食事をしており見守りをしながら会話も楽しんでいる	メニューを職員で考え、食材を買い物で調達し、キッチンで調理が行われている。利用者もできることに参加する機会がつけられている。また、季節等にも合わせた食事の提供が行われている他にも、職員も利用者と同じ食事を行う取り組みが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分量はその人その人に合わせ調節している。必要に応じて食事形態を変更するなどして提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に声掛け誘導し口腔ケアを行ってもらっている。出来ない方には必要に応じ介助している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄の記録を付けており個々のパターンの把握に努め、必要に応じて声掛け誘導している。可能な限りトイレでの排泄が出来るよう支援している	利用者の状況等にも合わせて排泄に関する記録を残し、申し送り等も行いながら、一人ひとりに合わせた排泄支援が行われている。トイレでの排泄を基本に考えながら、職員2名で支援を行うこともあり、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	定期的にバナナや果物、乳酸菌飲料などを食事の際に提供している。水分補給にも気を付け運動も行うようにしている。便秘が続くようであれば下剤を使用し調整している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	曜日や時間帯は決まってしまうが、順番はその人その人に合った順番を考慮しており、利用者様のペースに合わせた入浴をいただいている	入浴については、利用者が週3回の午後の時間に入浴ができるように支援が行われており、利用者にゆったりと浴槽に入ってもらえるような支援が行われている。また、入浴を拒む方にも声かけ等を検討しながら、定期的な入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その人その人の状態を見て必要に応じて休んでいただくよう声掛けしている。寝具は常に清潔に保ち、空調の希望を聞いて快適に休めるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人一人の薬情をファイリングし職員全員が目的や副作用について把握できるようにしている。薬の変更があった際は状態の変化に気を付けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	余暇時間にレクリエーションを行ったり、天候次第で散歩に出掛けて気分転換を図っている。手芸や工作の得意な方は作品を制作し飾っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	感染症の問題があるため、出かけたいたい時に掛けられないのが現状である。緊急の用事がある時は家族様に協力してもらい外出している	外出が困難な状況になっているが、近隣を散歩する等、可能な範囲での外出支援が行われている。季節等にも合わせた花見にも出かける機会もつくりられている。以前は、運営法人の関連事業所に出かけたり、市外にある公共施設に出かける機会がつけられている。	利用者の外出の機会が限られた範囲となっていることもあるため、今後の状況をみながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的に施設に預けてもらっているが、希望されれば本人が所持している方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を所持している方もおり、希望があれば自らが電話をかけられるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関や老化、リビングに飾り物や季節のカレンダーなどがあり、入居者様に合わせた配置を考慮している。窓からの明かりで明るく清潔にも気を付けている	リビングは採光が良いこともあり、日中の時間を明るい雰囲気でも過ごすことができる生活環境がつけられている。また、壁面には、季節等にも合わせた飾り付けや利用者の作品の他にも写真を掲示する等、アットホームな雰囲気づくりも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間にソファを配置しており、思い思いに過ごせるようにしている。席の配置も利用者様同士の関係を考慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室の家具は本人の使い慣れた物や好みの物を持参していただき、居心地よく過ごせるようにしている	居室には、使い慣れた家具類や好みの物等を持ち込んでいる方もいるが、退居された方が残した家具類をそのまま使用している方もあり、様々な状況等にも合わせた対応が行われている。また、家族との写真を飾ったり、自身の作品を掲示している方もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室やトイレに張り紙や目印をつけわかりやすくなるよう配慮している。利用者様の妨げにならないような物の配置を考え工夫している		